



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第63回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

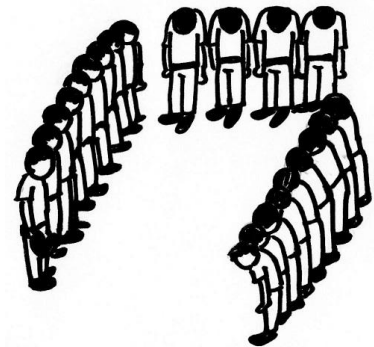
マナー編 「礼に始まり礼に終わる」

兵庫県高等学校野球連盟審判部は今年度の重点指導として、「礼」を取り上げています。改めてその意図を説明します。

第52回(2015年4月掲載)において、両チームが息を合わせて試合に臨む、また、試合を終えるという意味から、試合開始前後の挨拶は「両チームがタイミングを合わせる」こと、また、具体的な指導方法を紹介しました。

兵庫県高等学校野球連盟審判部は2016年度の重点指導事項として、試合開始前後の「礼」の歴史に触れ、改めて「同時の礼」の重要性を掲げました。

「礼」とは感謝・敬意の意を表す行為であり、両チームの選手が試合を運営する全ての関係者への感謝の心、また、相手チームへの敬意の心の表れが真の「礼」ではないでしょうか? ですから、感謝・敬意の気持ちを両チームが一致させることに重要な意味があり、また、試合途中での礼は必要ないとの指導にも繋がっているのです。



ルール編 「高校野球特別規則 6. 臨時の代走者」

第54回(2015年6月掲載)において、塁上の臨時代走者に打順が回ってきた時の措置を紹介しましたが、2016年度より高校野球特別規則の改正として明文化されましたので紹介します。また、臨時代走者には投手、捕手が除外されていましたが、捕手が除外選手から外れましたので合せて紹介します。

【高校野球特別規則の6】 赤字が修正箇所

試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、相手チームに事情を説明し、臨時の代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。

・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。**ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。**

・臨時代走者に替えて別の代走を送ることはできる。この場合、負傷した選手に代走が起用されたことになり、負傷選手は以後出場できない。

(1) 打者が死球などで負傷した場合

投手と捕手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。

(2) 塁上の走者が負傷した場合

投手と捕手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。